

2 《4つの最重点プロジェクト》についての取り組み

(1) すべての人がいきいきと暮らせる、バリアフリーのまちづくりプロジェクト

すべての人が、年齢や性別、障害の有無や国籍などに関わりなく、人権を尊重しあい、いきいきと安心して暮らせるまちづくりを目指して、バリアフリーのまちづくり関連施策の推進を図りました。

市民との協働によるバリアフリー化を推進するため、平成13年10月に「バリアフリーのまちづくり推進協議会」を設立し、現状の課題を把握するためのアンケート調査を行い、「バリアフリーのまちづくり基本構想」の策定に向けて検討に着手しました。

道路や公共施設などハード面のバリアフリー整備では、都道114号線（井の頭公園）や市道第134号線（天神山通り）の歩道拡幅整備、大沢コミュニティ・センターなどの公共施設周辺のバス停に上屋・ベンチの設置、介護予防の拠点となる総合保健センターにエレベーター等を整備し、京王井の頭線三鷹台駅に車イスで乗降可能なエレベーター（3基）を整備するための助成を行うとともに、さらに住宅のバリアフリー化を促進するために、新たに住宅バリアフリー改修助成制度を創設しました。

また、誰もが必要な情報が得られるような情報環境のバリアフリーとして、パソコンの操作経験のない市民5,000人を対象に、基本ソフトの操作やインターネット・電子メールの活用など基礎的な技能の取得を目指して「情報通信技術（IT）講習会」を各コミュニティ・センター、小中学校、産業プラザ、社会教育会館などで実施（171回）しました。

(2) 健やかに育ち笑顔がきらめく、子ども・子育て支援プロジェクト

未来を担う子どもたちが健やかに育つまち、子どもを育む力のある地域社会の実現を目指して教育・子育て支援関連施策の推進を図りました。



三鷹市中央通りタウンプラザ

子育て支援のネットワークの拠点として、子ども家庭支援センター「のびのびひろば」、低年齢児のための保育園（三鷹駅前保育園）、一時保育、ファミリー・サポート・センターなど複合的な子育て支援機能を持つ「三鷹市中央通りタウンプラザ」を竣工させ、平成14年4月の開所に向けた準備を行いました。また、公設民営の保育園として平成13年4月に開設した東台保育園（定員60人）では、全国ではじめて株式会社（ベネッセコーポレーション）への委託により運営を開始し、保育所待機児童の解消に努めました。さらに子育て支援事業として、市民と市と民間が協力し、子育てに関する人、施設、サービスなどの情報をトータルに提供する子育て支援のホームページとして、「みたか子育てねっと」を（株）まちづくり三鷹において開設しました。

ワークショップ手法を用いてプランづくりの段階から市民の意見を活かし、「学校公園」の小学校モデル校として建て替えを進めてきた高山小学校が竣工し、平成13年9月に開校しました。新しい高山小学校では、学校図書館の充実を図り、肢体不自由児学級を開設するとともに、学童保育所を併設しました。

(3) ともに信頼し責任を担う、協働のまちづくりプロジェクト

市民と行政の協働によるまちづくりの推進のため、21世紀を迎えた三鷹市の新たなビジョンを示す『新基本構想』と、今後10年間の施策のガイドラインである『第3次基本計画』を策定するに当たり、市が素案を作成する以前の白紙の段階から自主的な市民組織「みたか市民プラン21会議」（375人の市民によるNPO型組織）と市との間でパートナーシップ協定を締結して、その提言をもとに計画づくりを進めました。

外国籍市民等に関わった暮らしやすいまちづくりに向けて、外国籍市民自身による市政への参加を進めている「みたか国際化円卓会議（第2期）」では、平成12年度に「三鷹市新基本構想・基本計画への提言」を市長に提出したことを踏まえ、防災・情報提供について多方面からの意見交換などを行ったほか、「外国語市民便利帳」（4ヶ国語版）の最新版作成では、円卓会議の委員が企画に関わり、内容の充実に努めました。

身の回りにある公園に愛着を持ち、地域から市内全域へと広がる美しいまちづくりを目指して、市民のボランティア団体が地域の公園清掃等を行う「公園等里親事業」に取り組み、市民グループに対して支援を行いました。

安全で開かれた学校づくりの実現では、より一層開かれた学校づくりを推進していくことをねらいとして、保護者や地域住民の意向を取り入れ、平成12年度に発足した「学校運営連絡会」を市内の7中学校区を単位に継続して開催し、「学校評価委員会」の設置に向けて、内容や時期、開催方法の課題等を検討してまとめました。

効率的で開かれた自治体経営の確立を目指し、特別会計を含めた市の会計全体を対象とした「バランスシート」及び普通会計を対象とした「行政コスト計算書」の作成・公表を行うとともに、積極的な情報公開・情報提供をさらに進めるために、市議会ホームページの開設、市例規集のホームページへの掲載などを行いました。

(4) いのち・しごと・くらしが輝く、IT活用プロジェクト

めざましく発達する情報通信技術を積極的に活用して、より快適で質の高い市民生活の実現を目指して、ITを活用したまちづくりの推進を図りました。

庁内の情報の共有化を図り、同時に事務の効率化を図ることを目的として、パソコンの職員一人1台体制を目指して整備するとともに、庁内LANを業務のインフラとして確立させ、本格的な行政の電子化への基礎を確保しました。これを契機に庁内LANを活用した情報ネットワークの構築を一層進め、住民基本台帳ネットワークの開発、市例規集のホームページへの掲載を含むデータベース化システムの開発及び運用開始、全庁型財務会計

システムの設計、心身障害者福祉・情報システムの開発などを行ったほか、市議会ホームページを開設し、会議録検索システムも導入しながら、本会議録などの議会情報をインターネット上で公開しました。

また、学校インターネット構想を推進するため、文部科学省の「次世代ITを活用した未来型教育研究開発事業」を活用して、三鷹市独自の教育用コンピュータ導入計画により、インターネット対応型パソコンを小学校42台、中学校21台設置しました。



コンピュータ教室でのインターネットを活用した学習